クラス番号	633	担当教員名	荒井　和樹
テーマ	社会的養護とアウトリーチ		
著書・論文 研究課題等	・「潮流～つながる、社会を捉えるアウトリーチ」『週刊教育資料』2017年9月4日号 ・「『アウトリーチ』のリスクと貧困ビジネス」子どもと福祉Vol.10エッセイ ・「全国こども福祉センターでの取り組み ： 居場所としての『社会貢献』の重要性」 『日本の科学者』2016年2月号SALON		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：　予防、アウトリーチ、性産業、社会的養護、貧困ポルノ、NPO、支援のミスマッチ

目的・内容

わたしは社会的養護とアウトリーチ現場での経験から、以下の点に課題意識を感じています。
・状況が悪化し、相談が来てから、制度対象になってからの「待ち型」の支援
・評価されない「予防」
・支援の偏りと「貧困ポルノ」が生み出される構造

これらは、受け身のソーシャルワークが生み出した産物と捉え、今後は予防的な視点で実践（行動）できる人材養成が急務と感じています。「ひきこもり」「不登校」、あるいは「社会的養護」の対象になる前に、広く子ども若者を対象とした制度や支援の在り方について、様々な角度、視点から体験的に学び、課題に気づくためには現場に足を運ぶことが前提です。

授業計画

前期：社会的養護やフィールドワーク先の事前学習
　　自主講座の開講
　　福祉領域でのマーケティング・ブランディングスキルの必要性・社会的意義について学ぶ
　　（夏休み）：各グループによる社会的養護現場の見学と報告書作成

後期：支援の偏りと「貧困ポルノ」が生み出される構造
　　マーケティング・ブランディングの実践・評価
　　アウトリーチ・デタッチドワークの現場、子ども食堂などのフィールドワーク、報告書の作成
　　（冬休み）：関西でのフィールドワーク（ゼミ合宿）・4 年次には卒業論文指導を行います。

※このゼミを希望する学生はエントリーシートに、下記事項を必ず記載してください。
① 子ども若者分野で関心を持っている社会課題、テーマ。また、関心を持った理由について
② 子育て支援・社会的養護の拡充についての私見
③ ゼミの志望理由

担当教員からのメッセージ

児童養護施設職員を経て、特定非営利活動法人全国こども福祉センター理事長、奨学金ソーシャルワーカーを務めながら、現在も子ども若者を対象としたアウトリーチ、デタッチドワーク（若者のいる場所での活動）実践を行っています。

社会に対してのアプローチとして情報発信とフィールドワークを中心としたゼミ運営を行ないます。ゼミ活動への優先順位を高く持ち、自己管理・健康管理に努め、出欠・時間・提出物等を遵守してください。意欲的に外部研修やボランティア等への参加できる学生を歓迎します。